

2009年10月号 vol.202

広報

 兵庫医科大学  兵庫医療大学



4学部合同チュートリアル ガイダンス



同 グループ討議

特集 兵庫医科大学・兵庫医療大学 連携 4学部合同チュートリアル教育実施

05 最近の主な出来事

<兵庫医科大学>

- 07 国際交流センター長メッセージ
- 08 就任挨拶／模擬患者さん(SP)が活躍
- 09 学位の授与／平成20年度 兵庫医科大学 教員及び大学院生学術賞 授与
- 10 平成21年度 西日本医科学学生総合体育大会(西医体)など夏の活動報告／西医体を終えて
- 11 平成21年度 兵庫医科大学キャンパス見学会
- 12 兵庫医科大学4年生トリアージ、除染訓練／
関西学院大学 学生 早期臨床体験実習
- <兵庫医科大学病院>
- 13 病院長メッセージ
- 14 臨床検査技師、診療放射線技師合同の接遇研修会／
緩和ケア研修会／入院中の子どもたちが人形劇を楽しみました
- 15 初めてのインターンシップを行いました／
旧附属看護専門学校ホームカミングデー
- <篠山病院>
- 16 第10回ささやま老人保健施設 納涼祭／ささやま探訪
- 17 一斉清掃／第14回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会奨励賞 受賞／
篠山病院整備工事の進捗状況

<兵庫医療大学>

- 18 看護学部 学部長メッセージ
- 19 平成21年度 兵庫医療大学 オープンキャンパス
- 21 就任挨拶／兵庫医療大学ホームページ「学長ブログ」好評連載中
- <学校法人兵庫医科大学>
- 22 医療人育成センターについて／省エネ・経費削減にご協力ください
- 23 理事・評議員の異動／兵庫医療大学のための募金 状況報告
- 24 学校法人兵庫医科大学兵医・萌えの会 法人会員・個人会員への特典について
- 25 個人情報情報は厳重に管理して下さい!
- 27 卒業生紹介
服部 益治さん(兵庫医科大学第1期生)
麩谷 博之さん(兵庫医科大学第6期生)
- 28 職場紹介
兵庫医科大学 薬理学
兵庫医科大学病院 看護部 10-8病棟
兵庫医療大学 看護学部 家族支援看護学
- 31 Join us! 一課外活動紹介一
兵庫医科大学 バトミントン部
兵庫医療大学 漫画研究サークル／映画鑑賞サークル

兵庫医科大学・兵庫医療大学 連携

4学部合同 チュートリアル教育実施

「チーム医療とは何か」

平成21年9月24、25日、神戸キャンパスにおいて、兵庫医科大学と兵庫医療大学の合同チュートリアルが行われました。兵庫医科大学は早期臨床体験実習II、兵庫医療大学は医療科学概論の一環で、チーム医療の基礎作りが目的です。

今回は、兵庫医科大学1年生 120人と兵庫医療大学1年生 360人(薬学部150人、看護学部109人、リハビリテーション学部101人(理学療法学科46人、作業療法学科55人)の計480人が、学部混成の40グループに分かれてグループ討議や昼食を共にしながら、「チーム医療とは何か」について考えました。両大学が合同で授業を行うのは初めての試みです。



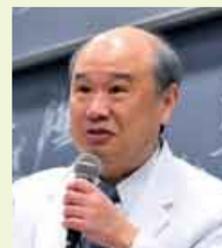
実施にあたり

兵庫医療大学では1年次より薬学部、看護学部、リハビリテーション学部の3学部合同の「医療科学概論」で医療の概要や医療人になるための心構えなど総論的な事項についての系統的講義を行っています。さらに3学部混成の小グループに分かれた問題解決型教育(チュートリアル)を行い、提示されたシナリオを基にして学生が自分たちで問題点を抽出し調査することにより、医療全体の理解を深めます。その後同じく3学部混成の小グループごとに兵庫医科大学病院での早期臨床体験実習で医療の実際を直接体験実習します。

本年度からはさらに姉妹大学である兵庫医科大学の医学部1年次学生を加えた4学部によるチュートリアル教育を実施します。医療チームを形成する要員である医師の参加は当然のことであり、今回の合同教育は「チーム医療」を学ぶためには必須です。

全国的にみても同一大学内での医学科と医療系学科との合同教育の実施はいくつかありますが、姉妹大学とはいえ、大学の垣根をこえた合同教育の実施は画期的な取り組みです。

課題として与えられたシナリオを基に、それぞれの医療現場に関わる医療職および医療施設の実際を学生同士が討議し、「チーム医療」についての理解を深めました。



兵庫医療大学 共通教育センター
末廣 謙 センター長

● ボーダレスな4学部連携体制

兵庫医科大学(医学部)と兵庫医療大学(薬学部、看護学部、リハビリテーション学部)の2大学4学部は、密接に連携して「チーム医療」について学べる場を早い時期から学生に提供し、将来の「チーム医療」の一翼を担う医療人を育成するための教育を実施しています。

近年の医療現場においては、患者さん及びそのご家族を中心に、医師をはじめとする各医療専門職が個々の役割を相互に理解し、チームとなって最善の医療を提供することが求められています。兵庫医科大学・兵庫医療大学では、複数学部合同での臨床実習やチーム医療教育を通して、医師や各医療専門職のそれぞれの役割について理解を深めながら、「チーム医療」を実践的に学びます。



● グループ討議

チュートリアル教育は少人数グループが与えられた課題について自ら考えて議論し、答えを求めていく教育方法で、討論しながら知識を深め考える能力を培うことを目的としています。

今回は「脳卒中を発症した人が、急性期から慢性期を経て、最終的に介護老人保健施設への入所や在宅医療を受けるようになるまで」というシナリオにそって討議を重ね、「疾患の急性期から慢性期に行われる医療とそれぞれに関わる医療職種について」を導きだすことをテーマとしました。

学生は配付されたシナリオから読み取れる情報をかき集め、どうい状況かを推測します。そして、病気を特定し、患者さんに対してどのような治療・サポートが必要かを考え、そこに関わる医療従事者とその仕事内容を決めていきます。



● グループ毎に昼食



両日も、グループ毎に兵庫医療大学レストランで昼食を取りました。初日は初対面ということもあり、緊張している様子でしたが、少しずつ会話が始まりました。

Interview 1日目

グループ討議直前

医学部生:看護師やコメディカルを目指す人と話をして視野を広げ、自分の理想とする医師になるための糧にしたいです。総合診療科医を目指しており、特に地域医療に関心があり、そこでは多くの職種に関わらなければならないから。

薬学部生:初対面の人が多く、少し緊張していますが、皆さんともフレンドリーで、仲良くなれそうです。

リハビリテーション学部生(理学療法学科):医学部の学生と会うのが楽しみです。3学部でのチュートリアルは体験していますが、医師の知識がどう関わってくるか関心があります。

看護学部生:とても楽しみです。チュートリアルでは医学部生の話を聞いて、いいものを作りあげたいです。

グループ討議終了後

医学部生:自分たちの仕事について鮮明ではない段階だが、それを調べつつ、自分ならどうするかを考えた。医学部でもチュートリアルで一度チーム医療の課題が出たが、他の職種に関しては想像の域を超えなかったのが、今回、皆の意見が聞けてよかった。早期臨床体験実習で病棟やリハビリテーション部、薬剤部などを回ったことも、今回のチュートリアルに生きたと思う。

看護学部生:とても楽しかったです。医学部生が病気に詳しく勉強になりましたし、薬学部やリハビリテーション学部もよく勉強している。もっと意識を高めて取り組みたい、とモチベーションがあがりました。

リハビリテーション学部生(作業療法学科):面白かった。明日はもっとグループ討議に積極的に参加したい。

リハビリテーション学部生(理学療法学科):医学部の学生とも仲良くなった。各職種の観点が知れて勉強になりました。

薬学部生:医師の指示を受け薬剤を処方するのが薬剤師の仕事だが、適した薬剤や分量、使用方法など、医師や他職種だけでは判断できない部分を提案していく立場だと思っている。今回、医学部生を含め皆と話ができてよかった。



● グループ別発表会

最終日の9月25日 14時から、グループ別発表会が行われました。満席のオクタホール、制限時間5分という状況の中、メンバーが互いに協力しあって、グループ討議の成果を発表しました。



あるグループの発表内容

「おばあさん(患者さん)が一人暮らしをできるまで」の出来事を流れにして、おばあさんを中心に医療従事者がどのように関わっていくかを考えました。

救急車で運ばれるところから、ICU、一般病棟を経て、リハビリ開始、日常生活についての相談、介護施設への入居、一人暮らしに必要なことの相談など、病気発症から一人暮らしまでの過程の中で、そこに関わる医療従事者とその仕事を検討し、まとめました。

初めは「それぞれの職種で何が出来るか」を考えていましたが、これ

では患者さん中心のチーム医療ではないと感じ、「患者さんの病状に合わせて、どの職種で何が出来るか」を考えていきました。その結果、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士以外にも様々な職種の関わりを知ることができ、一人ひとりがチーム医療の構成員であることを認識しました。

今回のチュートリアルでは、チーム医療は何であるかを実感させられました。ここで学んだことを活かしつつ、更にチーム医療の発展に携わることができる医療従事者になりたいと思います。



I nterview 2日目

グループ別発表後

医学部生:いつも同じ学部でだけ勉強しているが、4つの学部が集まって一緒に考えていく、というのが新鮮でよかった。

・医学部だけのチュートリアルとはまた違って、面白かった。皆とても仲良くしてくれた。他職種のことももう少し勉強したいと思う。

看護学部生:今までは、医師の役割や、病気の専門的な部分は想像するしかなかったが、医学部生が加わり、具体的なことが聞けてスムーズに進んだ。途中は討議内容をまとめるのに苦労した

が、上手くまとまったと思う。

リハビリテーション学部生(作業療法学科):医学部生も加わり、いつもより刺激的で面白かった。それぞれがわからないところを互いに補いながら進められたと思う。

薬学部生:各学部の役割、特色を出し合って意見を重ねたのがとてもいい勉強になり、うまくまとめられたと思う。医学部生の知識が入り、説得力ができて内容の濃いものになったと思う。

● チューターとして兵庫医科大学から7名、兵庫医療大学から33名の教員が参加しました。

チューターの感想

今回の合同チュートリアルでは、両大学どちらも初めての顔合わせで、しかも限られた時間の中で円滑にコミュニケーションを取り、協力し合うということが、難しかったようです。しかし、グループ討議では、少し戸惑い、お互いにぎこちなさもありましたが、相手の立場を尊重しながら進めようとする様子が見られました。このような交流の機会を、医療における様々な職種についての理解を深めるきっかけとし、卒業後のチーム医療の実践に、ぜひ役立ててもらいたいと思います。

兵庫医科大学 心理学
室井 みや 講師



チューターの感想

兵庫医療大学 看護学部
水野 暢子 講師



入学してから半年余りが過ぎ、自分の目指す専門性について考え始めている時期に合同チュートリアルを行うことは、視野を広げる良いきっかけになったと思います。

専門的知識が少ない学生にとって、短い時間の中で与えられたシナリオから問題点を発見し、その解決を導き出すことは難しかったようです。しかし、一人の患者さんに対してどの時期にどのような関わりをするのかについて、それぞれの専門領域から具体的な意見を出し合うことで、他職種の活動を知り、さまざまな医療専門職者が協働していることを学ぶことができました。

初めての顔合わせで、互いにうちとけて議論を深めるまでに至らなかった部分もありますが、メンバー全員が協力して課題に取り組む姿勢から、学生が医療チームの一員として自己の専門性を追求していく基礎になったと思います。

● 全体を通して



兵庫医科大学 共通教育センター
機 博行 副センター長

24日朝、初めて出会った学生たちは少し不安な気持ちもあったようですが、その後の昼食やグループ学習を通じて打ち解け、午後からのチューター付き討議が熱心に行われました。リソーサーはシナリオだけを呈示しましたので、自分達で問題点を選び出し、その解決をはかる必要があり、少し戸惑った様子もありました。

2日目は、午後から発表会が行われ、時間の制約もあり25グループが発表しました。それぞれの発表は個性にあふれたものが多く、参加学生からのするどい質問と松田学長始め教員からのコメントが多く寄せられ、大成功のままに幕を閉じました。次年度の実施も決まっています。学生、教員、お互いの理解と協力のために、このような2大学4学部の交流を今後さらに拡大させたいものです。

学長から

今回、開学以来の目標であった4学部合同でのチュートリアルが実現しました。学生や教員にとってよい経験になったと思います。患者さんを中心にして、医療従事者がコミュニケーション取りながら全員で診ていくのがチーム医療。互いの医療従事者が患者さんの病気を理解し、どういったケアが必要かを考えなければいけない。そして、専門性を高め、一人ひとりが責任を持って様々な医療に対処できることが大切です。これからのチーム医療は、ベースのチーム医療と、専門性の高いチーム医療の二つがあります。学生の皆さんは医療従事者になった後も、キャリアアップをしながらより専門性を高めていくという将来を見据えてほしい。

今後も、チーム医療演習(兵庫医療大学4年生と兵庫医科大学3年生の合同授業)、チーム医療研修(薬学部6年生と医学部6年生の合同病棟実習)などでの連携・交流も予定しています。今回の経験を大切にしてください。



兵庫医科大学
松田 暉 学長

● その他の連携状況

学校法人兵庫医科大学 大学連携協議会

教育・研究においてより一層の連携を図るために大学連携協議会を設置し、両学長をはじめ教育や研究に携わる教員が多数参画し、よりよい教育環境を築くための最適な連携体制を模索しながら、具体的な検討を行っています。

医療人育成センター

両大学連携による教育計画や臨床実習計画及びその実施体制を整備していきます。さらに同センターでは兵庫医科大学医学教育センター並びに卒業臨床研修センターと協働し、卒業教育研修における連携も推進していきます。(P22に医療人育成センター長の挨拶があります)

兵庫医療大学先端医薬研究センター

医薬・医療に関する最先端の研究開発を行い、その成果を疾病の治療及び予防に反映させることを目的として、また医学及び薬学等の関連分野の研究推進を図ることを目的として設置されました。現在、新薬開発等の共同研究を行っています。

研究プロジェクト① 「大学発の抗認知症治療剤の創薬」

研究プロジェクト② 「新世代ウイルスバクテリオファージの開発ならびにバクテリオファージ大量生産基盤技術の開発」

学生間交流

両大学とも、クラブやサークル活動などの課外活動や学生生活全般における支援を行う学生会があります。双方の学生会が積極的に連携し、学生間交流を活発化させていきます。合同で活動しているクラブ・サークルもあります。(現在はアーチェリー部、バスケットボール同好会、軽音楽部、芸術研究会、卓球サークルが合同で活動)

最近の主な出来事

8月 August

3	兵庫医科大学	キャンパス見学会	→P11をご覧ください。
	篠山病院	個人情報保護に関する講習会	全教職員を対象に個人情報の取扱いについて周知徹底の措置を定期的に講じることとし、その一環として、医療情報学 宮本 正喜主任教授による講習会「医療における個人情報保護について」を実施しました。
8・9	兵庫医療大学	オープンキャンパス	→P19～20をご覧ください。
19	兵庫医科大学病院	市民健康講座	第3会議室において形成外科 福田 健児講師が「美容外科と形成外科」をテーマに講演を行いました。
22	篠山病院	ささやま老人保健施設納涼祭	→P16をご覧ください。
22・23	兵庫医療大学	オープンキャンパス	→P19～20をご覧ください。
28	兵庫医科大学	トリアージ防災訓練	→P12をご覧ください。
31	兵庫医科大学	クローチア・リエカ大学交換留学	本学から4年生3名が9月25日まで、リエカ大学から3名が10月5日から10月30日まで交換留学を行いました。(詳細は203号で掲載予定。)



ささやま老人保健施設納涼祭



トリアージ防災訓練



クローチア・リエカ大学交換留学

9月 September

2	兵庫医科大学病院	市民健康講座	第3会議室において内科 上部消化管科 渡 二郎准教授が「食道がんと胃がんのお話」をテーマに講演を行いました。
4・5	兵庫医科大学病院	臨床研修指導医養成講習会	スペースアルファ神戸において開催されました。講習会は、臨床研修の充実に向けて、研修目標・研修方略・研修指導医のあり方・研修評価などについてのワークショップをとおり、質の高いカリキュラムの立案能力と望ましい指導方法を習得することを目的としたものです。学内外から約50名の医師が参加し、活発なグループ討議や意見交換が行われ、有意義なものとなりました。
5	兵庫医科大学	キャンパス見学会	→P11をご覧ください。
6	兵庫医科大学病院	大学病院連携型高度医療人養成推進事業「山陰と阪神を結ぶ医療人養成プログラム」における4大学合同FD 実施:島根大学医学部附属病院 キャリア形成支援部門(病院医学教育センター、地域医療教育研修センター、卒後臨床研修センター)	松江一畑ホテル(島根県松江市)において、文部科学省医学教育課 大学病院支援室 小林 万里子室長による講演「大学病院連携型高度医療人養成推進事業について」に続き、パネルディスカッション「4大学プログラムの運用と地域医療再生への展望」が行われ、パネリストとして各大学のコーディネータの先生方が参加され、本学からは兵庫医科大学コーディネータの芳川 浩男主任教授が参加しました。その後、情報交換会なども行われ、有意義な時間をすごしました。(本学からは教員10名と事務員1名が参加)
12	兵庫医療大学	看護学部編入学試験	9月18日合格発表
14	兵庫医科大学病院	人形劇「ちいちゃんにん」	→P14をご覧ください。
16	兵庫医科大学病院	市民健康講座	第3会議室においてペインクリニック部 福永 智栄助教が「緩和医療」をテーマに講演を行いました。
17	兵庫医科大学	学位授与式	→P9をご覧ください。
18	兵庫医科大学	大学院医学研究科入学試験(前期)	10月2日合格発表
19	兵庫医科大学病院	旧附属看護専門学校ホームカミングデー	→P15をご覧ください。
	兵庫医科大学病院	第1回阪神病病連携実務者連絡会	今後の病病連携、特に円滑な転院調整を推進していくため、転院相談の実務者レベルで顔の見える協力・連携関係を構築する目的で、9・3講義室にて開催し、16病院25名の出席をいただきました。地域医療・総合相談センターの伊賀 陽子助教と小西 尚美看護師長による「当院の転院調整システムについて～事例紹介とともに～」の発表があり、その後の意見交換会で大いに連携・交流を図ることができ盛会のうち終了しました。



臨床研修指導医養成講習会



4大学合同FD



人形劇「ちいちゃんにん」



ホームカミングデー



第1回阪神病病連携実務者連絡会



平成21年度保護者懇談会

21	兵庫医科大学	汕頭大学でのボランティア活動参加	本学5年生3名が9月27日まで汕頭大学でのボランティア活動に参加しました。(詳細は203号で掲載予定。)
24・25	兵庫医科大学 兵庫医療大学	4学部合同チュートリアル	→P1～4をご覧ください。
26	兵庫医療大学	平成21年度保護者懇談会	1年生から3年生までの保護者の皆様、約300名に出席いただきました。最初に学部別懇談会を行い、希望された保護者との個別面談に続き、オクトホールで全体説明を行いました。その後、学内レストランにおいて懇親会を行い、約130名が参加されました。
26・27	兵庫医科大学病院	緩和ケア研修会	→P14をご覧ください。
27	篠山病院	篠山キャンパス一斉清掃	→P17をご覧ください。
28	兵庫医科大学病院	医療講演会	3・3講義室において、「大学病院の使命と経営」という演題でアイオワ大学医学部の木村 健名誉教授にご講演いただき、教職員約200名が参加しました。講演前には著書「オペのイチロー、世界を斬る!」へのサイン会も行われました。



緩和ケア研修会



篠山キャンパス一斉清掃



医療講演会

TOPICS 兵庫医科大学が社団法人日本私立医科大学協会 第236回理事会の開催を担当

10/8(木)

台風18号の影響が心配されましたが、当日は台風一過の青空となり、会議はホテルオークラ神戸にて、見学は兵庫医療大学にて下記のとおり滞りなく行われました。

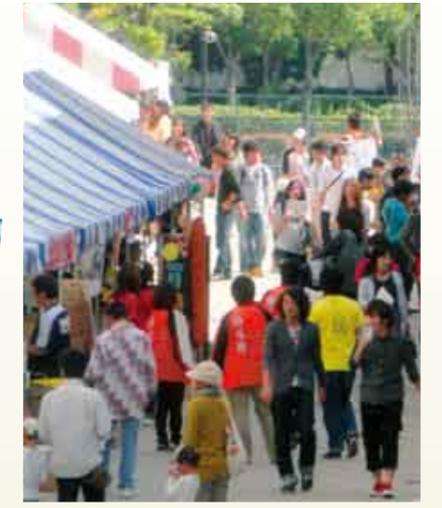
- 第65回三役会(11:30～13:00)
- 兵庫医療大学見学(13:20～15:00)
- 理事会(15:30～17:00)
- 懇親会(17:00～19:00)



兵庫医療大学 キャリアセンター見学

TOPICS 第2回兵庫医療大学 大学祭「海泉祭」を開催

10/10(土)、11(日) (詳細は次号の広報203号で掲載します)





兵庫医科大学国際交流センターの (Center for International Programs at Hyogo College of Medicine) 発足にあたって

国際交流センター長 | 増山 理

1 853年にアメリカ合衆国のペリーが黒船を率いて伊豆の下田に来航しました。これが200年以上続いた日本の鎖国の終焉に繋がったことは周知の事実であります。それからわずか150年しか経っていませんが、国際化(グローバル化)・情報化が進み、この世の中はもうボーダレスと言っても決して過言ではない状況ではないでしょうか?世界のあらゆるところで進行していることをリアルタイムで私たちが知ることができる時代がやってきました。イチローや中村俊輔の海外での活躍、海外で起こったいろいろな大事件は言うに及ばず、現在では国際学会での発表や海外での小さな出来事も国内で、しかも仕事場や家庭で情報を得ることができます。

2 このボーダレス時代をうまく生きていくには、私たちもいろいろなことを考えなければなりません。英語を始めとする外国語を理解できるようになること、そして異文化を受け入れることも重要です。しかし、私たち個人が、もっと積極的に国際交流に向かって進むことにより、さらに大きな収穫が得られると考えられます。兵庫医科大学に関わる人たちの国際交流を今後推進する目的で、このたび、国際交流センターが設立されました。幸い、兵庫医科大学ではすでに多くの国際交流の芽を育ててきました。汕頭大学医学院とは平成11年より、教員・研究者が交流し、また共同研究を行ってきました。最近では学生の短期留学も行っています。また、天津医科大学とも医療、研究、教育に関する学術及び技術交流と情報交換をし、また教職員・学生の交

流、そして共同研究も行っています。最近では、クロアチア共和国のリエカ大学と学生を双方向に交換留学させて国際交流を深めています。また、学生レベルの海外研修としては、数年前から米国コロンビア大学への1ヶ月間の実習や、米国ワシントン大学(シアトル)への2週間の研修にと、多くの学生を送ってきました。こういう事業を今後推進・後援することも国際交流センターの重要な役割のひとつです。現在、兵庫医科大学病院にて研修している医師の中には、初期研修終了後の研修を海外で受けたいと考え、実際にそれに向かって突き進んでいる者がいます。彼女はすでにアメリカ医師国家試験であるUSMLEをパスし、研修後に羽ばたく準備を着々と進めています。単なる交流を超えて、こういう人材を兵庫医科大学から輩出できることは、国際交流センターの船出にあたって、たいへん心強いことだと感じています。

3 国際交流センターは兵庫医科大学に所属する教員・研究者、学生などの国際交流を推進するだけでなく、アジアをはじめとする諸外国から兵庫医科大学に留学してきている留学生を支援することも重要な業務であります。兵庫医科大学国際交流センターは船出したばかりで、まだまだ陰も形もない状況ではありますが、ひとつひとつ着実に実績を積み重ねることにより、兵庫医科大学のグローバル化の推進役になればと考えております。兵庫医科大学の教職員・同窓会員をはじめ、関連する皆様の暖かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

| 就任挨拶



先端医学研究所
アレルギー疾患研究部門
教授 善本 知広
(平成21年10月1日就任)

この度、先端医学研究所に新しく開設されました「アレルギー疾患研究部門」の教授を拝命いたしました。私は、兵庫医科大学7期生として昭和59年に卒業後、故東野一彌前学長の第三内科学講座にて免疫・アレルギー疾患の臨床と研究に従事しました。その後、平成2年に現新家莊平理事長が主催されていました免疫学・医動物学教室に配置換えとなり、中西憲司主任教授と共に教育と研究を続けて参りました。入学以来、2年半の米国・国立予防衛生研究所(NIH)での研究生活を含め、31年間にわたり母校、兵庫医科大学でお世話になっております。

先端医学研究所は、平成9年に岡村教授(先端研、生体防

御部門)により発見されました免疫を調節する因子、インターロイキン18の先端的研究を目指して設立されました。私も微力ながら研究所設立に参加し、免疫学・医動物学と生体防御部門を兼任して参りました。現在、アレルギー部門を含めて5つの研究部門から構成され、臨床と基礎の融合を目指した研究所として活動しています。

今回新たに開設されました「アレルギー疾患研究部門」の使命は、「アレルギーの発症機序を解明し治療法を確立していくこと」と考えています。本研究プロジェクトを推進していくためには、兵庫医科大学内で関連します臨床と基礎の様々な教室の先生達とのコラボレーションが大変重要と考えております。更に、本研究部門は、関連します学部学生と大学院生の教育を求められています。学生の皆さんには、基礎医学研究の重要性と楽しさを伝え、一人でも多く科学の眼を備えた臨床医を育てていきたいと考えています。

皆様のご支援のもと、「アレルギーを科学してアレルギーを治していきたい」と硬く決意しております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

| 模擬患者さん(SP)が活躍

本学では、レベルアップ選択科目「医療面接を学ぼう」、全国共用試験OSCE対策の一環として「模擬診察実習」を行っており、ボランティアの方に模擬患者さん(SP: simulated patient)として参加いただいています。模擬患者さんには事前に複数のシナリオ(年齢や症状、背景など)を覚えていただきますが、医師役の学生はシナリオを与えられず、学生自身の判断と言葉で模擬患者さんと対話を進めていきます。

約8分から10分の実習では、模擬患者さんを迎えるところから始まり、医師役の学生が模擬患者さんとの対話を通して診察に必要な情報を収集し、今後の方針を決めるまでを行い、その様子を教員が評価します。学生からは「最初は緊張して、次に何を聞けばよいのか分からなくなっていたが、回を重ねるごとに落ち着いて対応できるようになってきた」と好評で、4年生全員が受講するOSCE対策講義では、レベルアップを選択していた学生と、していない学生では緊張する度合いにかなりの差が出るようです。

ボランティアの一人、樋口 美津恵さんは「学生が少しずつ上達していく姿を見るのが楽しい。医師となった学生に「あの時は

0798-45-6284(兵庫医科大学 医学教育センター)
0798-46-4188(兵庫医科大学 SP会 代表:野口さん)

ありがとうございました」と病院内で声をかけてもらうこともあり」とやりがいを感じておられます。初診案内などの病院ボランティアを14年ほど続けてこられ、5年前から模擬患者役も始められました。「市民として一緒に大学・病院を良くして行きたい」という強い思いでご参加いただいております。ボランティアの方々のご協力は本学にとって心強い味方となっています。

模擬患者さん(SP)による実習は診察法実習や全国共用試験OSCEなど全国的に幅広く取り入れられています。兵庫医科大学SP会(代表:野口 勝弘さん)では、男女、年齢を問わず模擬患者ボランティアを募集しています。参加・見学希望の方は下記までご連絡ください。



平成21年10月1日の模擬診察実習 樋口さん(左)

学位の授与

	内科系 高橋 千晶 甲第531号(平成21年3月31日) Germline Patched1 mutations in Japanese Basal Cell Nevus Syndrome Patients (基底細胞母斑症候群の日本人例における遺伝子変異)
	内科系 井野口 千枝 甲第532号(平成20年9月30日) Role of Macrophages in the Development of Pancreatic Islet Injury in Spontaneously Diabetic Torii Rats (SDT ラットの膵島障害進展におけるマクロファージの役割)
	生理系 吉原 大作 甲第533号(平成21年3月31日) Protective role of glutathione S-transferase A4 induced in copper/zinc-superoxide dismutase knockout mice (SOD1ノックアウトマウスにおけるGSTA4の誘導と生理的意義)
	薬理学 長野 貴之 乙第314号(平成21年9月3日) Prostaglandin E ₂ reduces extracellular ATP-induced migration in cultured rat microglia (プロスタグランジンE ₂ は細胞外ATPによるミクログリアの遊走を減少させる)
	遺伝学 吉川 良恵 乙第315号(平成21年9月3日) Upregulation of genes orchestrating keratinocyte differentiation, including the novel marker gene ID2, by contact sensitizers in human bulge-derived keratinocytes (ヒトバルジ由来ケラチノサイトへの皮膚感作性物質添加によるケラチノサイト分化時に協調的に機能する遺伝子群(新規マーカー遺伝子ID2を含む)の発現上昇)

平成21年度 西日本医科学学生総合体育大会(西医体)など夏の活動報告

■体育会系

クラブ名	種目・部門	順位	備考	クラブ名	種目・部門	順位	備考
合気道部	個人の部	3位	(4年)小森 友紀子 (4年)三好 晶雄	バスケットボール部	男子団体戦	初戦敗退	-
					女子団体戦	初戦敗退	-
	男子団体戦	予選落ち	-	バドミントン部	男子団体戦	3位	-
	女子団体戦	予選リーグ3位	-		男子個人シングルス	ベスト16	(5年)上村 尚
剣道部	男子個人戦	1位	(1年)木俣 米一		女子個人シングルス	ベスト16	(1年)竹林 香織
		2回戦敗退	(5年)河郷 亮	バレーボール部	男子団体戦	ベスト32	-
		2回戦敗退	(1年)徳田 浩亮		女子団体戦	2回戦敗退	-
	女子個人戦	2回戦敗退	(5年)香山 尚美	ヨット部	団体(国際470級)	12位	-
		2回戦敗退	(5年)八木 沙織		団体(スナイプ級)	16位	-
硬式庭球部	男子団体戦	初戦敗退	-	ラグビー部	男子団体戦	4位	-
	女子団体戦	ベスト8	-	スキー部 ※西医体冬季	女子個人の部 大回転新人戦	3位	(2年)西村 英里
			(5年)石井 紀子		女子個人の部 耐久3km新人戦	1位	(2年)西村 英里
			(5年)中野 由惟	※陸上競技部・水泳同好会は本年度西医体に不参加。			
	女子個人戦シングルス	8位	(2年)大井 佑夏 (2年)宮本 優帆				(6年)福田 雄一
ゴルフ部	団体の部	40位	-		シングルスラウンド男子団体	準優勝	(5年)布施 慎也
サッカー部	男子団体戦	初戦敗退	-				(3年)和田 吉弘
			-		シングルスラウンド男子個人	4位	(5年)布施 慎也
			-				(6年)福田 雄一
柔道部	女子個人戦	ベスト8	(3年)益子 沙友里	アーチェリー部 (全日本医科学学生 アーチェリー大会)	シングルスラウンド女子個人	3位	(3年)本田 晶子
		ベスト8	(3年)内田 啓子		ハーフラウンド男子	2位	(2年)志村 雄飛
準硬式野球部	男子団体戦	3位	-		ハーフラウンド女子	3位	(2年)田所 麗
			-				優勝 (1年)竹内 真理子
			-				(1年)藤田 理奈
卓球部	男子個人シングルス	ベスト16	(6年)森川 暢		グリーンラウンド女子	4位	(1年)山上 真裕子
	男子個人ダブルス	ベスト16	(3年)貴志 豪俊 (2年)許勢 文誠			6位	(1年)中村 友香
			-			7位	(1年)伊藤 純子
			-				(1年)大野 博章
			-				(1年)大野 博章
軟式庭球部	男子団体戦	初戦敗退	-	水泳同好会 (近畿医科学学生 水泳選手権)	男子個人 50m自由型	2位	(1年)大野 博章
	女子団体戦	初戦敗退	-		男子個人 100m自由型	2位	(1年)大野 博章
			-		女子個人 50m自由型	2位	(3年)福井 美穂
			-		女子個人 100m自由型	3位	(3年)福井 美穂
	男子個人戦ダブルス	ベスト64	(1年)赤木 直紀 (1年)黒田 一毅		男子団体戦 200mリレー	30位	-
		ベスト16	(4年)今本 千絵		男子個人 100m平泳ぎ	18位	(5年)遠藤 悠紀
		ベスト64	(3年)澤渡 友紀 (4年)大井 智香子 (2年)猪股 典子		男子個人 100m平泳ぎ	19位	(3年)岩根 成豪
	全医体 東西対抗戦 (団体戦・西軍選抜)	勝利	(4年)今本 千絵		女子個人 50m自由型	17位	(3年)東 裕圭
			-		男子個人 50m自由型	19位	(3年)池田 勝浩

■文化会系

HCME	The39th WJEMA Summer Conference			室内楽団	2009年8月30日 H ₂ O交響楽団 第6回定期演奏会 (※主管) <平成記念会館>
	WJEMA Speech Contest 2009	5位 ※入賞	(1年)長間 多恵		
		9位	(1年)井淵 誠吾		

平成20年度 兵庫医科大学 教員及び大学院生学術賞 授与

平成21年9月3日の教授会の席において平成20年度兵庫医科大学教員学術賞及び大学院生学術賞の授与式が行われ、学長から教員学術賞については表彰状と副賞(奨励金)が、また、大学院生学術賞については表彰状と記念品が贈られました。

【教員学術賞】 若手教員(応募時年齢40歳以下)とし、優れた研究から原則として2名以内を選考する。



解剖学
(神経科学部門)助教
小林 希実子



内科学
(リウマチ・膠原病科)助教
関口 昌弘

関口助教は
第18回日本シェーグレン症候群学会
奨励賞を受賞しました。

受賞論文名

Role of Sphingosine
1-Phosphate in the
Pathogenesis of
Sjogren's Syndrome



【大学院生学術賞】



内科系 内科学 上部消化管
橋本 佳代

学位論文名

Oxidative stress induces gastric epithelial permeability through claudin-3
Biochemical and Biophysical Research Communications v.376 2008

西医体を終えて

第61回西日本医科学学生総合体育大会
評議委員 第4学年次

永井 諒

今回、私にとって4回目となる日本医科学学生総合体育大会(以下、西医体)に、主管の琉球大学との橋渡し役である評議員という大役を引き受けさせていただきました。至らぬ点多々ありご迷惑をおかけしたと思いますが、各競技の代表者や教務学生課の方々、先輩の協力を得ることができ、無事大会を終えることができました。ありがとうございました。

また、野球部の一員として参加した今回の西医体では、去年の初戦敗退という悔しい結果を受け、この一年はベスト4入りを目標に、野球部一丸となって練習を重ねてきました。

新型インフルエンザによる臨時休講や試験期間の変更などにより、夏の練習が十分にできない厳しい状況の中、部員それぞれが責任感を持ち、「一年間やってきたことの結果をだそう!」とこの大会に向けて調整してきました。迎えた大会では、沖縄の暑さや、台風による試合延期に負けず、関西のライバルチームや豪腕投手率いるチームなど力を持った強敵相手に競り勝ち、同率3位という誇らしい結果を手にすることができました。長年に渡って野球部を支えてきてくれた6年生を、いい形で送り出せることが何よりの喜びです。

我々の監督が「部活動は人間形成における大切な場だ」とよくおっしゃられます。部員は現状に満足することなく、日々活動に励んでいます。そしてこれらの部活動は、顧問の先生をはじめとする、多くの方々のご協力なくして、出来るものではありません。今後ともいっそうのご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



平成21年度 兵庫医科大学キャンパス見学会 開催

入学試験制度やキャンパスライフを知っていただくために、キャンパス見学会を8月3日と9月5日に実施しました。第1回目には173組273名、第2回目には70組98名の受験希望者・保護者にご来場いただきました。

関入試センター長による入試概要説明では、一般公募制推薦・一般入学試験に加え、本年度導入される地域指定推薦や大学入試センター試験利用入学試験についての説明が行われました。模擬講義「心臓手術の基礎」(第1回目のみ)では、心臓血管外科学の宮本主任教授がVTR等を使用した迫力ある内容で講義を行いました。

医学教育シミュレーター展示・体験コーナー、個別相談コーナー、在学生との交流コーナー、平成記念会館見学ツアーなどを通して、兵庫医科大学のキャンパスライフをイメージしていただけたと思います。

受験希望者からは「入学後のプランが分かり大変なためになりました」「模擬講義が面白かった」、保護者の方からは「見学で実際に大学の雰囲気を感じれば子供も頑張ろうという気になります」などの感想がありました。



模擬講義「心臓手術の基礎」

推薦入学試験が行われます。

※詳細は本学ホームページ「入試情報」をご覧ください

一般公募制推薦入学試験・地域指定推薦入学試験
出願期間:平成21年10月28日(水)～11月9日(月) 必着
試験期日:平成21年11月15日(日)

医学教育シミュレーター展示・体験



個別相談コーナー



解剖実習室見学



共同利用研究施設見学



平成記念会館見学



柔道場

在学生が大活躍

各イベントでは元気な声と笑顔で来場者を迎えてくれました。



兵庫医科大学4年生 トリアージ、除染訓練 実施

平成21年8月28日、平成記念会館の体育館において、兵庫医科大学の4年生47人が授業(診療法実習)の一環で、負傷の程度で治療の優先順位を決める「トリアージ」訓練を行いました。今回の訓練では学生が交互に医師役と患者役を務め、学生自らが医師役となってトリアージ訓練を行うのは、本学では初めての取り組みとなりました。最初は医師役の学生も当惑気味にトリアージ訓練を行っていましたが、慣れてくるにつれて迅速に対応できるようになりました。

訓練に参加した友澤 翔さんは、「今はまだ知識が全然足りない段階。瞬時に患者さんの症状を判断してトリアージタグをつけるのはとても難しかった」と感想を寄せてくれました。また、汐見 千寿さんは、「救急は医療の原点だと思っているので、授業の一環としてこのような訓練実習が行われることは、非常に意義があると思います」と、充実した様子でした。

その後、資料棟前に設営した除染テントに移動し、放射線や塩素ガス等の漏洩事故、生物化学兵器テロ対策の訓練として、完全防備した救命救急センターの医師が英国スタンフォード救急局(特殊災害医療チーム)の今中氏に指導を受けながら、被害を受けた患者役(学生3人)の除染を行う訓練も行い、大変貴重な経験となりました。

地域救急医療学の吉永特任教授は「トリアージは非日常的な状況で行うが、臨床の基礎能力をしっかりと身につけていれば、災害時にも対応できる能力は自ずと備わるものだ。日ごろの臨床実習を疎かにせず、こういった訓練を通してモチベーションを高め、それぞれの能力を発揮してほしい。」と講評され、訓練を終了しました。



関西学院大学 学生 早期臨床体験実習

関西学院大学の学生7名が平成21年8月25日から本学で早期臨床体験実習を行い、8月28日にグループ別発表会を行いました。第1日目のオリエンテーションの後、1号館8階西、10階東、11階東の病棟に分かれて2日間実習を行い、看護業務やチーム医療などを学び、患者さんとのふれあいを体験しました。

最終日のグループ別発表会で、11階東病棟(血液内科)で実習した生命科学を学ぶ学生は「医師や看護師、コメディカルの皆さんがしっかりと患者さんを支えられていた。私も患者さんに『治療を頑張ろう』と希望を持ってもらえるような研究をしていきたいです」と話し、また、社会福祉関係の仕事を目指す学生は「同じ年代の患者さんと話す機会があり、強く前向きに治療を受けておられる姿が印象的でした。退院後の患者さんを支援する仕事に関心があり、どのようなサポートが求められるか、じっくりと考えることができました」と話していました。

鈴木医学教育センター長は「医療は継続していくもの。これからは医療従事者だけでなく、皆で医療のことを考えていく時代です。この実習が医療に関係する道に進む人も、そうでない人も、「医療」について考えるきっかけになれば嬉しい。要望があればどんどん言ってください」と話されました。

